

## 納豆は食べ同性愛を許容し、 コーヒーが苦手なマゾの私

年末を迎え、農家は組木の整理を済ませ新年の準備をしているのであろうか。……と投稿文を書き終えたところに、12月号が届いた。2週間ほど前に編集長からメールがあり、江刺の稲と高橋がなりさんのところをよく読むようにと指示があった。「な、なんだこりゃ？」というのが率直な感想。編集長は私のことを買い被っています。もしくはホメ殺し？ 12月号から始まった和郷園、農業生産者として成功した木内博一氏や、農業者でも知らないことを正しく表現できる土門剛氏たちをもっと褒めるべきでしょう。

でも、今回の土門さんの「グロッキー（ノックアウト）」いう表現は40歳以下の人には死語ですよ。ちなみに、近所の年配の人たちは出来の悪い人のことを「マイナス1」という的確な言葉を使っていました。

あと、自分の心の奥底にあった**マゾの部分**（SMのM）を引き出していたことに感謝していますが、「そんなに大豆を作っているのに味噌汁を飲まない」というのは正確ではなく、味噌が嫌いなのです。隠し味に入っている分には構いませんが、自分の栽培しているのは納豆

用の大豆で、納豆は大好きですし矛盾はないでしょう。納豆用大豆は小粒系が多くて、重量あたり表皮部分が多いので味噌に使うことはいけません。お勧めはネット販売のみのDr.富ちゃん「納豆のススメ」（95%遺伝子組み換え納豆）です。その他、苦手なものにコーヒーがあります。これを書いていたら来年になるので次回にしましょう。

さて、高橋がなりさんからのプロポーズの件であるが、もしかしてテリー伊藤さんを紹介↓日テレで朝の番組アナウンサーの葉山エレヌ↓最終的には西尾由佳理さんに行き着いて、ズームインできるのでしょうか？ なんかいいいんじゃない。まさかこの年になってAV男優としてソフト・オン・デマンドのビデオに出演させられて、これが**本当の遺伝子挿入**だ！なんてことにならないですね？

がなりさんは、私を超右翼と思われているようだが、そうでもない。こんな私がアメリカ人との会話に入

## Vol.10 AVには出ませんが……



宮井 能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

ると、リベラルを感じる人が多い。ヤンキーの保守的宗教観を100%理解するためには、生まれながらの洗脳教育の必要性を感じる。

自分にリベラルさを感じる例として、同性愛はもちろん、同性愛者の結婚もOK。ワイフは子供たちがその世界に進んで独立すれば、手がかからなくていいと言っている。

# オレにも 言わせる!

## 北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

ホリエモンと戦い、あんな顔して死刑制度反対の亀井静香議員と同じに論じては失礼だが、考えは一緒である。「では宮井さんの家族が虐殺されたらどうしますか?」の問いには、私刑でしようと答えるが、現実的でないことはわかる。ここで言いたいのは、なぜ実際のレバーを操作する処刑に、国家のみが関与しなければならぬのか疑問だということだ。たとえば国政選挙の時に死刑判決の最終判断を国民に委ねるのはどうだろうか。確か来年、5月から裁判に国民が参加するんですよ。

そして処刑は過半数の国民の同意によること、たとえばインターネット裁判や、ネバダで行なっていた5人による銃殺刑で、実弾は4人しか入っていないと言う極刑の中で、誰が行なったかわからなくする方法も世界にはあるようだ。ま、本当は**天寿をまっとうさせたくない人達**も世の中には存在することを伝えたりするべきなのだが。

世界を見ても死刑制度があり、実施されているのは、赤道に近く緯度の低い国。米国50州の州法で死刑を認めないのはアラスカ、ミネソタのような緯度が高く寒い地域である。北海道の殺人事件で、バラバラ事件を聞いたことがない。そのほとんどの行為はその場限りであり、もし

かして死者に対する尊敬の念があるのだろうか? それに比べ、温かい地域の殺人事件は残酷性が多くみられるように思う。バラバラになるかどうかの違いは何かを考えた場合、冬期間に積雪があるかどうかが地理的犯罪学上のボーダーとすれば、現在では福島県北部かな。日本を南方系の民と見るか、それとも進化の過程で北上した北方系の民と見るか、実際はその混合状態なのだろうが、地球温暖化に伴い、このバラバラ・ボーダーラインが北上した時が本当の意味で国民の**安心・安全**にかかわる温暖化現象が進んだと言えるかもしれない。

従って、国家が国民の生き死に直接的に関与するのであれば、やはり成人に対して徴兵制の義務を負わせ国民の生命、財産を守る意識も大切と考える。

## GMとAVの共通点

「宮井さん、ついに脳天いっちゃった?」と読者のつぶやく声が聞こえた気がする(電波?)。

正確には精神科医の判断が必要かもしれないが、実は高橋がなりさんが言う「GM賛成は宮井さんの無謀な決めつけは無茶すぎます」のフォアプレイ(前戯)なのです。

日米が安全性に関して既存の作物

と同等である(安全とは言っていないし、言えるはずがない) GM作物のことを否定する方達の「ほとんどは無知」なる表現は正しくなく、むしろ「GMの歴史を見たり経験したりしていない」と言うのが正しい。

幸か不幸か、私は米国人に接し、米国の農業誌を25年前から読み、現在国内に私しかないが、自分の4・5haの畑でGM大豆を栽培し、政府に販売した。間違いなく生産者がGM栽培を行なえば、昔のやり方に戻ろうとは思わない。ただしパパイアは除くが、米国においても現在のところ特定の害虫に効果がある、もしくは特定の病気に抵抗性がある生鮮野菜のGMは存在していないことは残念である。日本国内で今のうちから、将来の普及や勉強を考えられたらどうでしょうか。やはり、どの業界でも早いもの勝ちのルールは存在するはずですから。

11月3日、あの朝日新聞でさえ「GM作物の普及には国が農業政策として取り組まなければならない」と4ページにわたって書かれてあった。米国は1980年代後半に植物に知的所有権(特許等)を与える農業政策をとり現在に至っているが、日本はその当時、種苗法、種子法などのランクの低い法律で対応できると間違った政策を取ってしまったこと

は業界ではだれもが知っている。人体組織の再生可能なiPS細胞で米国よりも、たった数日早く成功した京都大学の先生に1週間数億の国家予算がついた。

GMに対する無視政策を20年放置して、国民にさあGMをどう思いますか? なんてことやったら結果は見えているが、農水は昨年5月から一部GM作物の開発政策を始めた。

たぶん、この様なことは**日本のAV界**でも似たようなことがあったのではないだろうか。80年から90年初頭における美少女ソフト物から企画物、そしてハード的な作品における女優の「オーイエイ! オーイェス!!」などの感情発言や目を開けて行為をする表現は、最近の作品で使われても、違和感なく受け入れられるだろうが、30年前の日本の若者たちが英語交じりで実際に行なっていたかどうか疑問です。時代の流れを見た人には疑問を感じなくても、高校生がこっそり昔の父親の作品を見たら「なんだこれ?」いうのかもしれないですね。

もちろん誤解しないでいただきたいが、AV界の批判をしているわけではありません。というところで、12月15日、農家の台所での「ガチンコ舌戦」に参加すべきかどうか悩んでいるところですよ。